

第6学年国語科学習指導案

平成28年11月2日（水）5校時
6年1組（男子11名 女子10名 計21名） 本時 4/7
授業者 池谷 康史

- 1 **単元名** オリジナルストーリーをみんなに紹介しよう
教材名 「物語を作ろう」（東京書籍6年）

2 単元の目標

- 経験したことや想像したことをもとに、楽しんで物語を書くことができる。（関・意・態）
- 想像したことを明確に表現するため筋道の通った物語の構成を考え書くことができる。
（B 書くこと イ）
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたり、表現を工夫して書くことができる。
（B 書くこと ウ）
- 物語を書くことを通して、表現の工夫に気づくことができる。（言（1）イ（ケ））

3 単元について

（1）単元観

①本単元で取り上げる主な指導事項

本単元は、小学校学習指導要領国語の第5学年及び第6学年「B 書くこと」の指導事項「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」と指導事項「ウ 事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」を取り上げて指導する。

②付けたい力へ向けての言語活動とその特徴

「B 書くこと」の言語活動例「ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること」を具体化した『新人作家〇〇〇〇の新作発表「◆◆◆◆◆」』という言語活動を位置付ける。

ここで取り上げる『新作発表「◆◆◆◆◆」』は、7枚の写真から1枚を選び、その写真から浮かぶイメージを手がかりに物語の筋道、内容、表現などを工夫しながら想像した世界を、「始まりの場面」「山場」「終わりの場面」という3つの構成でまとめて書いた物語を紹介し合うものである。今回紹介し合う対象はクラスの友だちであるが、クラス全員分の物語を一冊にまとめ、「6年1組オリジナルストーリー全集」として、学校図書館に展示し、全校にも紹介していく。

本単元では、これまでの読書経験や生活体験など、その時々情景や自身の心情などを想起し学習に生かすことができる。読書経験の豊富な児童は、物語の設定や構成、表現の仕方を工夫して意欲的に学習に取り組むであろう。しかし、読書経験が少ない児童は何をどのように書けばよいか戸惑い、物語を書く活動に対する意識に差が生まれてくるかもしれない。そこで、教師のモデルを読んだり、これまで習った物語はどんな中心人物だったか、冒頭やラストはどんな文章だったかなどについて1～5年生までの国語の教科書を使って振り返らせ、表現してみたいという思いをもたせて学習に取り組ませたい。このことが、「イ 想像したことを明確に表現するため筋道の通った物語の構成を考え書くことができる。」と「ウ 事実と感想、意見とを区別し、目的や意図に応じて表現を工夫して書くことができる。」の実現につながると考える。

（2）児童観

「書くこと」については、1学期に「ずい筆を書こう」で、ずい筆の特徴を理解し、体験した出来事と、そこから感じたことや考えたことを整理してずい筆を書く学習を行った。ずい筆を書くことを通して、自分の内面と向き合い、自己を見つめ直し、新たな自分の発見につなげることができた。2学期の「資料を生かして呼びかけよう」では、複数の資料から情報を読み取り、資料を活用して自分の考えを表す文章を書く学習を行った。資料を読み取り、資料が文章の中で発揮する効果を考えながら環境問題に対する身近な取り組み

を呼びかける文章を書くことができた。しかし、2つの単元ともに課題は、書く活動に対する児童の意識、自分の考えたことや感じたことを相手にも分かりやすく、明確に表現することに個人差が見られた。また、全国学力状況調査の結果を見ると、「書くこと」の領域において、条件が複数になった時に条件を満たして記述する問題に課題が見られた。そこで本単元で、物語を書くことに対する意欲を高め、1枚の写真から自由に想像した物語を文章に書く力と自分が想像した物語を読み手に効果的に伝える文章表現力を伸ばしていきたい。このことが、課題の克服につながると考えられる。

(3) 指導観

第一次では、既習の物語を振り返り、1～5年生までの国語の教科書を使用しながらそれぞれの物語の書き出しの文、ラストの一文はどのようなになっているのか物語一覧表にまとめる。また、場面の様子や人物の気持ちを表す表現（擬人法や比喻、感情・気持ち・感想などを表す時の表現の工夫）などについて考える。その後、5年生2学期「不思議な世界へ出かけよう」の単元で構成を考え、場面の様子や人物の気持ちが伝わるように物語を書いた経験を想起させ、教師のモデル「何気ない一日」を見たりして『新人作家〇〇〇〇の新作発表「◆◆◆◆◆」』という学習のめあて・単元のゴールイメージをつかむ。

第二次では、7枚の写真から1枚の写真を選び、そこから想像を広げて物語の構成を考えさせる。写真を1枚選ぶ時には、全体交流の中でそれぞれの写真について友だちが想像したことも参考にして写真を選ぶようにする。そして、「題名」「時」「場所」「人物（名前・性格・社会的地位など）」「あらすじ」などを構成メモに整理する。そして、構成メモをもとに物語の「始まり」の場面を書く。その際、1～5年生までの国語の教科書を使用して既習の物語を振り返ったことを生かしながら、表現の工夫をして物語の書き出しを書くようにする。そして、「山場」の場面、最後に「終わり」の場面を書く。「始まり」の場面、「山場」の場面、「終わり」の場面を書く時には、第一次で既習の物語についてまとめた物語一覧表を活用させながら自分の物語を書かせていく。また、ストーリー一覧表（既習の物語がどんな物語だったか簡単にまとめたもの）や性格一覧表（いろいろな性格をまとめたもの）、登場人物一覧表（既習の物語にどんな登場人物がいたのかまとめたもの）、書き出し・ラスト一覧表（既習の物語の書き始め・ラストをまとめたもの）、しかけ・アイテム一覧表（色々な物語のしかけをまとめたもの）などは、書く活動に対して苦手意識をもつ児童や想像したことをうまく表現できない児童の手立てとして活用したいと考えている。

第三次では、完成した物語を読み合い、交流する。友だちが作った物語を読み合い、筋道の通った物語になっているのか、表現を工夫していると感じられるところはあるのかといった観点に沿って友だちが書いた物語を読み合い、助言や感想を書いた付箋を作者の友だちに渡して交流する。

本時では、構成メモをもとに物語の始まりの場面を書く。物語の書き出しには、「人物」「時」「場所」についての説明などが書かれていることが多いことをおさえる。その際、教科書の村田さんの「心はにじ色」や教師のモデル、1～5年生までの国語の教科書、書き出し・ラスト一覧表などを参考に書き出しを工夫するよう促す。昔話のように書き始めたり、呼びかけや会話文から書き始めたり、既習の物語のように書き始めたり、子ども一人ひとりの工夫が見られると考える。交流の中では、書いた文章を友だち同士で交換して文章を読み合うことを書き始める前に伝えることで、児童は読み手を意識しながら物語を書き進めるであろう。読み手に伝わるように書くために、誤字や脱字など書いた文章を推敲する姿も期待できる。そのことが筋道の通った物語を書くことにつながると考えられる。

(4) 研究テーマとの関連「主体的な学びで共に高まり合う児童の育成」

主体的に児童が学ぶためには、与えられた指示に従って学習を進めるのではなく、児童自身が自ら考え、そのことがその後の学習活動に生かされていることを自覚し、見通しをもって言語活動を進めていく展開にしていく必要がある。そこで、前時・本時・次時の学習とのつながりを意識しながら、主体的に学習に取り組ませたい。「オリジナルの物語を書いてみたい。」といった書く活動に対する意欲を高め、持続させるために、まず、1～5年生までの国語の教科書を活用して、既習の物語について自分たちで探し、見つけ、表にまとめ、それを自分の物語を書く時に生かす。既習の物語の表現の工夫に気付くことで

「これを参考にすれば自分でも書けそうだな。」というような気持ちをどの児童ももつことができるように、特に既習の物語を扱う活動を丁寧に行っていく。「あの時、みんなで探したあの物語の書き出しを参考に書いてみよう。」と自分たちが学習してきたことを想起し、参考にしながら想像したことを表現するために表現を工夫して物語を書こうとしたり、困った点や悩んでいる点などペア・全体での交流の中で解決していくことで共に高まり合う児童の育成につながると考えられる。

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	・経験したことや想像したことをもとに、楽しんで物語を書き、交流しようとしている。
書く能力	・想像したことを明確に表現できる、筋道の通った物語の構成を考え書いている。(イ) ・登場人物の紹介や出来事など、簡単に説明したり、特定の場面を詳しく描写したりして、他の人にも分かるように書いている。(ウ)
言語についての 知識・理解・技能	・擬人法や比喩など表現の工夫に気づき、自分の表現に用いている。 イ (ケ)

<言語活動のモデル「何気ない一日」>

何気ない一日	池谷 康史 作
「もう朝か。」 カーテンの隙間から朝日が差し込んでいた。時刻は五時五十分。いつも通りの朝だが、昨日の仕事が体にきたのか、疲れが残っている感じた。私は将司。妻と子どもの三人暮らしで先月、東京から高知に引っ越してきたばかりだ。営業の仕事にも、こちらでの生活にも慣れてきたところだ。しかし、何か今日は変だ。やたら天井が高く感じた。朝食の支度をしている妻が近づいて来た。その姿を見て、おどろいた。妻の身長が二メートルを超している。 「おはよう。」 と妻が私に言った瞬間、妻は私を軽々と持ち上げた。(そんなばかな。どれだけの力を持っていたんだ。)と私は混乱した。妻は私を持ち上げたまま、洗面台の所まで行った。鏡を見た瞬間、私は目を疑った。何と、そこに映っているのは妻と息子の明だった。どうやら私は、来月二歳になる息子になってしまったようだ。 「お父さんはもう仕事に行ったから、早くご飯を食べて、保育園に行く用意をしなくちゃね。」 私に話しかけながら、妻は私の手と顔を洗った。私は今の状況が把握できず、ただ口をポカーンと開け、子どもに遊ばれるぬいぐるみのようにされるがままだった。 食卓に移動し、朝ご飯になった。スプーンを持ち、納豆がかかっているご飯を食べたが、味が薄い。当然だ。息子は、まだ一歳。濃い味付けにはしていない。がまんしながら、食べ続けた。ボロボロこぼしながらも、必死に食べたスプーンやフォークがうまく使えない。しかも、こぼれた物が足の上にも落ちてきた。思わず、 「いや、いや。」 という言葉が口から出た。	「いやいやじゃありません」 と妻に叱られた。私は、もう叱られまいと黙って食べた。 食事が終わり、妻が洗い物や保育園の支度をしている間、私は教育テレビを見たり、おもちゃで遊んだりして、登園までの時間を過ごしていた。テレビ画面も大きく、何か新しいテレビで見ている感じで得した気分だった すると突然、腹痛が私をおそった。(もしや、これは・・・)その場にしゃがみこみ、一步も動けない。トイレに行きたいけれど、動けないのだ。あせりと腹痛で汗が滝のように出てきた。しかし、(どうしよう、このままでは・・・それは絶対にいやだ!)決心した私は、最後の力を振り絞って立ち上がった。その瞬間、足がぐらつき、体が前に倒れそうになった。踏ん張ろうとしたが力が入らず、前のめりになり、キヤリアカーのおもちゃに向けて倒れこんでしまった。(もうだめだ・・・) 目を閉じた瞬間、 「お父しゃーん。」 という声が聞こえたのと同時に激痛が走った。目の前が急に明るくなった。そばでは、息子が心配そうに私を見ている。(あれ・・・)どうやら、寝ぼけてキヤリアカーに頭をぶつけてしまったらしい。 「夢か。」 私はほっとしたような、何とも言えない気持ちで、息子をだきかかえた。 「お父しゃん、ごはん！」 息子が言う。 「よし、今日も納豆ごはん、がんばって食べような。」 今日も、我が家の何気ない一日が始まる。

◇学習の流れ

第一次

- 既習の物語を振り返り、表現の工夫について考える。
 - ・1～5年生までの国語の教科書を使い、書き出しの文やラストの一文、物語のしかけ、感情や気持ちを表す表現などについて考える。
 - ・感情や気持ちを表す表現の工夫について考える。
- 学習への意欲と見通しをつかむ。
 - ・教師の「何気ない一日」のモデルを見て、単元のゴールイメージをもつ。
 - ・単元のねらいを確かめる。

第二次

- 7枚の写真から想像できることを全体で話し合い、どのような物語ができそうか考え、1枚の写真を選ぶ。
- 構成メモに整理する。(時、場所、人物など)
- 構成メモをもとに物語を書く。

第三次

- 完成した物語を読み合う。
 - ・友だちの物語を読み、意見や感想を付箋に書き、交流する。
- 友だちからもらった付箋も参考にしながら、学習を振り返る。

付けたい力に向けた言語活動
【新作発表◆◆◆に向けて、構成を考え想像したことが伝わるように表現を工夫して、物語を書く】

◇意識の流れ

【児童の実態】

自分が考えたことを相手に分かりやすく明確に表現することに弱さが見られる。

- ・あの物語、懐かしいなあ。
- ・僕にも書けるかなあ。でも、5年生の時に一度書いているから大丈夫かな。
- ・今思うと、それぞれの物語にいろいろな工夫があったんだなあ。
- ・あの物語みたいなのを書きたいな。

- ・この写真から想像したことを物語にしよう。
- ・時、場所、人物はこれでいいかな。
- ・大きな出来事はどうしようかな。
- ・ここで擬人法を使ってみよう。
- ・最後の一文は、かっこよくしよう。たしか、あの物語だと、・・・。
- ・あの物語を参考に書いていこう。

- ・この物語おもしろいな。○○さんのこの表現、上手だな。
- ・○○君は、筋道の通った物語を書いているな。
- ・物語で使った表現の工夫を感想文や日記の時にも使ってみよう。

単元で付けたい力

- ・想像したことを表現するために文章全体の構成の効果を考える力 【B 書くこと イ】
- ・場面の様子や自分の気持ちなど、目的に応じて表現を工夫する力 【B 書くこと ウ】

他教科への広がり

- 総合的な学習の時間「未来へ！（周りを見つめ生き方について考えよう）」
 - ・人権学習を通して、生活を見つめ、自分の考えをまとめる。(構成メモ)

6 指導計画及び評価計画（全7時間）

	時	学習活動	主な評価規準
第一次	1 ・ 2	これまでの物語を振り返り、これからの学習のめあてをつかもう。 - 既習の物語を振り返る。 - 感情や気持ちを表す表現の工夫について考える。 - 教師のモデルを見る。 - 単元の流れを知り、学習のめあてをつかむ。	【言】感情や気持ちを表すには、いろいろな表現の仕方があることに気づいている。 (ノート、発言) 【関】物語を書くことについて興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 (ノート、発言、行動観察)
	3	新作発表するために 想像を広げて物語の構成を考えよう。 7枚の写真から想像できることを交流する。 7枚の写真から1枚選ぶ - 物語の題名や「時」「場所」「人物」「あらすじ」を構成メモにまとめる。	【書】筋道の通った物語の構成を考えながら、構成メモにまとめている。 (構成メモ、行動観察)
第二次	4 本時	新作発表するために 表現を工夫して物語の「始まり」の場面を書こう。 「時」「場所」「人物」の説明を書くことをおさえる。 - 既習の物語の書き出しを想起させ、自分が書く物語の書き出しを考える。 - 書いた部分を推敲させる。	【書】構成メモをもとに、物語（「始まりの場面」）を書いている。 (ワークシート、行動観察) 【言】物語を書くことを通して、表現の工夫に気づいている。 (ワークシート、行動観察)
	5	新作発表するために 表現を工夫して物語の「山場」の場面を書こう。 - 物語の中で最も大きな変化や出来事があることをおさえる。 「終わり」の場面の人物について、どのように変わったのか、何が変わったのか考えさせる。 - 書いた部分を推敲させる。	【書】構成メモをもとに、物語（「山場」の場面）を書いている。 (ワークシート、行動観察) 【言】物語を書くことを通して、表現の工夫に気づいている。 (ワークシート、行動観察)
	6	新作発表するために 表現を工夫して物語の「終わり」の場面を書こう。 「始まり」の場面の人物と「終わり」の場面の人物を比べ、変化しているのか確認する。 - 筋道の通った物語になっているか推敲させる。	【書】構成メモをもとに、物語（「終わり」の場面）を書いている。 (ワークシート、行動観察) 【言】物語を書くことを通して、表現の工夫に気づいている。 (ワークシート、行動観察)
第三次	7	完成した物語を読み合い、おもしろさや表現の工夫について交流しよう。 友だちの物語を読み合い、おもしろかったところや良いと思った表現などを伝え合う。	【関】書いた物語を読み合い、物語のおもしろさや表現の工夫について助言や感想を伝え合っている。(行動観察、付箋)

7 学習の展開（全7時間）

第一次 1・2時間目（1・2／7）

- （1）目標 『新人作家〇〇〇〇〇の新作発表「◆◆◆◆◆」』という学習のめあてに興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。

感情や気持ちを表すには、いろいろな表現の仕方があることに気づくことができる。

（2）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 既習の物語について考える。 ・「名前をみてちょうだい」があったね ・「ごんぎつね」があったね。 ・「世界でいちばんやかましい音」があったね。 ・「大造じいさんとがん」があったね。 2 本時の課題をつかむ。 これまでの物語を振り返り、これからの学習のめあてをつかもう。	○これまで、学習した物語文にはどんなものがあったのかを振り返り、5年生の時に「世界でいちばん〇〇〇〇〇〇」というテーマで物語を書いたことを想起させ、本単元に向けての意欲化を図る。
3 課題を解決する。 かわり合う授業 （1）既習の物語の書き出しの一文、ラストの一文などについて調べ、表にまとめる。 ・「ニャーゴ」は会話文から始まっているね。 ・「すいせんのラッパ」は、問いかけで終わっているね。 自力解決の場 （2）感情や気持ちを表す表現について考える。 （悲しい） ・涙が止まらなかった。 ・ガックリと肩を落とした。 ・その場に立っていらなかった。 ・どうやって書けばいいのかな。 （嬉しい） ・笑顔で跳び上がった。 ・思わず、友達と手を握り合った。 ・自然と目を細めた。 （3）教師のモデル「何気ない一日」を読む。 （4）教師のモデルを見ての感想を出し合う。 ・結末が面白かった。 ・題名の意味が分かった。 ・あそこの表現がおもしろかった。 （5）学習の流れをつかむ。 ・全7時間か。	○1～5年生までの国語の教科書を用意する。 ○各班に物語一覧表を配布する。 ○既習の物語で起こった出来事やしかけなどについても振り返るようにさせる。 ○「悲しい」「嬉しい」の2つの気持ちを挙げ、登場人物の感情や気持ちは動作や行動で表すと、より読み手に人物の様子や気持ちが伝わることに気づかせる。また、「海のいのち」を取り上げ、擬人法や比喩などの表現の工夫にも気づかせる。 ※悩んでいる児童には、自分が悲しかった時の様子を想起させ、どんな行動をとったのか尋ね支援する。 ☆感情や気持ちを表すには、いろいろな表現の仕方があることに気づいている。 【言】（ノート、発言） ○教師作の物語「何気ない一日」を範読する。 ○登場人物のこと、展開や結末、文章表現のことなど感想を自由にノートに書かせた後、交流させる。 ○学習の流れを提示する。

・書いた物語を友だちに読んでもらうのか。 ・友だちが書いた物語も読めるのか。 4 今日の学習を振り返る。 ・あの写真を選んで、物語を書こうかな。 ・中心人物の気持ちに変化するように意識して物語を書くようにしよう。 ・さっき作った物語一覧表を参考にしたら書けそうかな。 ・登場人物の感情や気持ちを表す時には、行動や動作のことを書いて表そう。	○写真をもとに想像したことを物語に書くという単元のめあてを確認する。 ○7枚の写真を提示する。 ○学習の流れや単元のめあてを知っての感想をノートに書くよう伝える。 ☆物語を書くことについて興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 【関】（ノート、発言、行動観察）
5 次時の学習について知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 7枚の写真から、それぞれどのようなことを想像したのかワークシートに書いてくる。	○次時は1枚の写真を選び、そこから想像を広げて物語の構成を考えることを伝える。 ○7枚の写真が載っているワークシートを配布する。 ※1枚の写真を取り上げ、想像したことをワークシートに書かせ、全体で書き方について確認する。

第二次 1時間目（3／7）

- （１）目標 １枚の写真から想像したことをもとに、「時」「場所」「人物」「あらすじ」を構成メモにまとめることができる。
- （２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ。 思考したくなる課題設定 新作発表するために 想像を広げて、物語の構成を考えよう。	○単元のゴールイメージを共有し、目的意識をもたせる。 ○前時の学習の振り返りを数名紹介し、本時へ向けての意欲化を図る。
2 課題を解決する。 かかわり合う授業 （１） 7枚の写真からどのようなことを想像したのか交流する。 ・アップのイワシが迷子になりそう。 ・9時30分で世界の時が止まった。 ・力を合わせて魔法をかけている。 ・自由奔放な猫が何かを見つけた。 自力解決の場 （２） 7枚の写真から1枚を選び、想像したことをもとに、物語の題名や「時」「場所」「人物」「あらすじ」を構成メモに整理する。 ・一匹のイワシが冒険に出る物語 ・何でも願い事が叶う木の物語 ・世界の時が止まってしまう物語 ・けんか別れしてしまったねこの兄弟の物語 ・どうしようかな。 3 今日の学習を振り返る。 ・構成メモに整理して、物語のイメージがはっきりしてきた。 ・山場の出来事が決まれば書ける気がする。 ・友だちが想像したことがヒントになった。	○前時の家庭学習のワークシートをペア・グループで交換させ、友だちが想像したことを発表させる。 ○構成メモ、性格一覧表を配布する。 ○「海のいのち」を例に挙げ、3人称・2人称・1人称、どれで物語を書いてもよいことを確認する。また、筋道を通った物語を書くためには、「始まり」「山場」「終わり」の展開を考える必要があることも確認する。 ○教科書P120の村田さんの構成メモを参考にさせる。 ※迷っている児童には配布した一覧表や友だちが想像したことを参考に「どこで」「誰が」「何をするのか」について具体的に問いかけ支援する。 ○教科書P120の村田さんの構成メモも参考にさせる。 ☆筋道の通った物語の構成を考えながら、構成メモにまとめている。 【書】（構成メモ、行動観察） ○今日の学習の振り返りをノートに書かせる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 物語の構成メモを仕上げ、教科書P121の「心はにじ色」には、どんな工夫があるのか考えてくる。	○次時は、表現の工夫について考えることを伝える。

第二次 2時間目（4／7） 本時

（１）目標 構成メモをもとに、物語（「始まり」の場面）を書くことができる。

物語を書くことを通して、表現の工夫に気づくことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ。 思考したくなる課題設定 新作発表するために 表現を工夫して物語の「始まり」の場面を書こう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時へ向けて目的意識をもたせる。 ○前時の振り返りを数名紹介し、本時へ向けて意欲化を図る。
2 課題を解決する。 （１）村田さんの書き出しの工夫について考える。 ・読み手に呼びかける文章から始まっているね。 自力解決の場 （２）構成メモをもとに、物語の「始まり」の場面を書く。 ・まずは、「時」と「場所」の説明を書こう。 ・村田さんのように呼びかけから書いていこうかな。会話文から始めようかな。 ・どうやって書き始めたらいいのかな。 ・ちょっと自分の生活体験も入れてみようかな。 ・一度声に出して読んでみて、誤字や脱字がないか推敲しよう。 かかわり合う授業 （３）ペアで交換して、書いた文章を読み合う。 ・○○君は、会話文から始めているのか。 ・この話、この後どうなるのか気になるな。 ・○○さんは、あの写真を選んだのか。	○教科書P121の村田さんの「心はにじ色」の書き出しが呼びかけから始まっていることに気付かせる。 ○物語の書き出しには、「人物」や「時」「場所」についての説明などが書かれていることが多いことをおさえる。 ○ワークシートを配布し、既習の物語の書き出しや教師のモデルも参考にさせる。 ○一度も物語を読み返すことなく書き進めることがないように、段落や2～3文ごとに読み返しながら物語を書くようにさせる。 ※悩んでいる児童には、「いつ」「どこで」起こるのか尋ね、登場人物の名前や性格を順序立てて尋ね、書き出し・ラスト一覧表を参考にさせながら支援する。 ☆構成メモをもとに、物語（「始まり」の場面）を書いている。 【書】（ワークシート、行動観察） ☆物語を書くことを通して、表現の工夫に気づいている。 【言】（ノート、行動観察）
3 今日の学習を振り返る。 ・書き出しを工夫する時、この前の学習を生かすことができた。 ・「○○○○」の物語を参考にして始まりの場面を書くことができた。 ・友だちが書いている物語が気になるなあ。	○友だちの文章を読む前に、読んだ後には誤字・脱字についての助言や表現の工夫について簡単な感想を友だちに伝えることを確認する。 ○今日の学習の振り返りをノートに書かせる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 「山場」でどんな出来事・事件が起こって登場人物が変化するのか考えてくる。	○次時は、構成メモをもとに物語の「山場」の場面を書いていくことを伝える。

(3) 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆構成メモをもとに、物語（「始まり」の場面）を書いている。

ある町に、一匹のオスの猫がいました。その猫の名前は、ミケ。体も小さくて、とても気が弱い猫でした。ミケには、クロという仲が良い猫がいました。クロは体が大きく、とても強気な黒猫でした。二匹の猫は、いつも塀の上でじゃれあって過ごしていました。
ある日、・・・

A 十分満足できる状況

◆構成メモをもとに、表現を工夫して物語の（「始まり」の場面）を書いている。

「ミケ、早く来いよ。」
クロが言いました。ミケが慌てて塀を上ってきました。クロは、体が大きく強気な黒猫です。それに比べ、ミケは、体も小さくとても気が弱い白猫でした。二匹は、体も性格も正反対でしたが、いつも塀の上でじゃれあって毎日過ごしていました。
ある日、・・・

(4) 板書計画

11/2

物語を作ろう

新作発表するために

表現を工夫して、物語の「始まり」の場面を書こう。

「心はにじ色」

- ・みんな、ぼくのこと知っているよね。（呼びかけ）
- ・出来事の流れ
- ・風景、色、人物の気持ち

○「始まり」の場面について

- ・時、場所の説明
- ・人物の紹介（性格、夢、考えていること）

○段落や二〜三文ごとに読み返しながら書き進める。

○友だちと交換して読み合う

（振り返り）

※数名の振り返りを簡潔に書く。

第二次 3時間目（5／7）

- （１）目標 構成メモをもとに、物語（「山場」）を書くことができる。
物語を書くことを通して、表現の工夫に気づくことができる。
- （２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ。 思考したくなる課題設定 新作発表するために 表現を工夫して物語の「山場」の場面を書こう。	○単元のゴールイメージを共有し、本時へ向けて目的意識をもたせる。
2 課題を解決する。 （１）物語の「山場」について確認する。 ・「サーカスのライオン」では、火事が起こったね。 ・「世界でいちばんやかましい音」では、ギャオギャオ王子の誕生日に世界中が静かになったね。 ・「海のいのち」では、瀬の主に会って太一の気持ちが変化したね。 自力解決の場 （２）構成メモをもとに、物語の「山場」書く。 ・どう書いていけばいいのかな。 ・この出来事で登場人物の気持ちが変わるぞ。 ・これをきっかけに現実の世界に戻るぞ。 ・ちょっとここまでで、一度読み返してみよう。 ・ここの人物の様子が伝わるように比喻を使ってみようかな。 ・ここの登場人物の気持ちは、人物の行動で表してみよう。 3 今日の学習を振り返る。 ・構成メモをもとにして「山場」が書けたよ。 ・比喻や擬人法を使って、表現を工夫することができたよ。 4 次時の学習について知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 誤字や脱字、話の筋のねじれ、伝わりにくい部分はないか書いた物語を推敲してくる。	○既習の物語を取り上げ、物語の中で最も大きな変化や出来事があることをおさえる。 ○表現の工夫（擬人法や比喻など）をして書くことを意識するよう声をかける。 ※悩んでいる児童には、「始まり」の場面の登場人物を振り返らせた後、「終わり」の場面の登場人物を想像させ、既習の物語を参考にしながら、どんな出来事や事件がきっかけになるのか尋ね支援する。 ○一度も物語を読み返すことなく書き進めることがないように、段落や2～3文ごとに読み返しながら物語を書くようにさせる。 ○書いた物語（「山場」）を読み返させて、推敲させる。 ☆構成メモをもとに、物語（「山場」の場面）を書いている。【書】（ワークシート、行動観察） ☆物語を書くことを通して、表現の工夫に気づいている。【言】（ワークシート、行動観察） ○今日の学習の振り返りをノートに書かせる。 ○次時は、構成メモをもとに物語の「終わり」の場面を書き、物語を完成させることを伝える。

第二次 4時間目（6／7）

（１）目標 構成メモをもとに、物語（「終わり」の場面）を書くことができる。

物語を書くことを通して、表現の工夫に気づくことができる。

（２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ。 思考したくなる課題設定 新作発表するために 表現を工夫して物語の「終わり」の場面を書こう。	○単元のゴールを確かめさせ、本時への目的意識をもたせる。
2 課題を解決する。 （１）物語のラストについて考える。 ・「海のいのち」では、ラストで太一が村一番の漁師になっていたね。 ・「ゆうすげ村の小さな旅館」のラストは、美月さんの手紙で終わっているね。 自力解決の場 （２）構成メモをもとに、物語の「終わり」の場面を書く。 ・物語のラストをどうしようかな。 ・最後の一行は、何か余韻が残るような感じにしてみたいな。 ・最後の一行は、「すいせんのラッパ」みたいに読み手に問いかけて終わりにしてみようかな。 ・題名の言葉を入れようかな。 ・「始まり」で○○だった気持ちが、「終わり」で□□になったから、登場人物の気持ちが変化しているぞ。 ・最初から読み返してみよう。 3 今日の学習を振り返る。 ・やった。完成したぞ！ ・友だちが書いた物語も読んでみたいな。	○書き出し・ラスト一覧表を使って、既習の物語のラストや教師のモデルなどを参考にさせる。 ○「始まり」の場面と「終わり」の場面では、登場人物が変化していることをおさえる。 ※悩んでいる児童には、「始まり」の場面の登場人物を振り返らせ後、既習の物語を参考にしながら、登場人物がどのように変わったのか尋ね支援する。 ○一度も物語を読み返すことなく書き進めることがないように、段落や2～3文ごとに読み返しながら物語を書くようにさせる。 ○書いた物語（「終わり」の場面）を読み返させて、推敲させる。 ☆構成メモをもとに、物語（「終わり」の場面）を書いている。【書】（ワークシート、行動観察） ☆物語を書くことを通して、表現の工夫に気づいている。【言】（ワークシート、行動観察） ○今日の学習の振り返りをノートに書かせる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 物語の清書をしてくる。	○次時は、友だち同士で物語を交換して読み合って交流することを伝える。

第三次 1時間目（7／7）

- （１）目標 友だち同士で物語を交換して読み合い、物語のおもしろさや表現の工夫について助言や感想を伝え合うことができる。
- （２）展開

主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○） 評価（☆）支援（※）
1 本時の課題をつかむ。 思考したくなる課題設定 完成した物語を読み合い、おもしろさや表現の工夫について交流しよう。	○単元のゴールを確かめさせ、本時への目的意識をもたせる。
2 課題を解決する。 （１）交流の見通しをもつ。 ・僕の物語を読んで、友だちはどう思うのかな。 ・みんな、どんな物語を書いたのかな。 かかわり合う授業 （２）班で交流する。 ・○○さんは、あの写真から想像を広げて物語を書いたのか。 ・私と同じ写真を選んでいるけど、物語の内容は違うな。 ・呼びかけから書き始めているな。 ・ここで擬人法を使っているな。 ・ここで比喩を使っているな。 ・この登場人物の気持ちを工夫して表現しているな。 ・登場人物の気持ちに変化しているぞ。 ・これは、ファンタジーの物語だ。 ・ラストを工夫しているな。 3 今日の学習を振り返る。 ・登場人物の気持ちを表す工夫や書き出し・ラストの工夫は、日記や作文、詩を書く時にも使ってみよう。 ・最初は書けるかどうか不安だったけど、既習の物語や一覧表を参考にしながら書き進めることができ、想像したことを書くのが楽しく感じた。 ・更によくするために今度作る時には、しかけやアイテムを書き加えて、読み手をドキドキわくわくさせたいな。	○交流の仕方を説明する。 ○読んだ物語の表現の工夫や展開のおもしろさ、自分の物語との共通点・相違点などを返していくことを意識させる。 ☆書いた物語を読み合い、物語のおもしろさや表現の工夫について助言や感想を伝え合っている。 【関】（行動観察、付箋） ○今日の学習の振り返りをノートに書かせる。また、更に良くするために、どうしたらよいかも考えさせる。
4 次時の学習について知る。 家庭学習のサイクル化 家庭学習 物語のあとがきを書いてくる。	○それぞれの物語を一つにまとめ、「6年1組オリジナルストーリー全集」として、学校図書館に展示することを伝える。